

## ROKKO 23

所在地 神戸市灘区  
用途 工場・倉庫・店舗・  
ショールーム  
竣工年度 1890年  
改修年度 1991年  
所有者 小泉製麻(株)  
設計者 (株)竹中工務店  
施工者 (株)竹中工務店



【審査評】 元々は明治23年に建てられたレンガ造の製麻工場、倉庫群であったが、積極的な再生、活性化を狙ったコンセプトを策定し、時代に合わせ三段階に分けて改修したのが本物件である。

企画の動機としては、会社の経営多角化、遊休施設の積極的再生を掲げ、記念碑的な修復・保存でなく新しい機能の付加による活性化した施設を目指したとされているが、しっかりとしたコンセプトの策定によって、12年にわたる3期の改修が統一的に実施され、かつ陳腐化しない商業施設としたことは評価に値する。このコンセプトは、第1期は新しいライフスタイルの創出を目指した「住」の提案としてのインテリアマート。第2期は、「遊」「食」の提案としての多目的ホール・レストラン・カフェ。第3期としては地域性を考えた灘五郷インフォメーションセンターである酒泉をつくることであった。

改修にあたっては、消防法令に適合すべく一部を撤去しているが、古いレンガ壁は表面のモルタルをはがして再生し、木造トラスののこぎり屋根も手を加えながら保存することによって、歴史的建築物の落ち着いた雰囲気が演出されている。内装については、レンガ壁と柱・梁についての手仕事のグラインダー掛けによって塗装を落とした木材現わし仕上げがインテリアマートに相応しく、4.9mの林立する柱の表情と相まって、人間味豊かな空間を構成している。

全ての設計についていえることだが、商業施設にありがちな奇を衒うデザインを排除し、歴史ある建物、素材を生かしながら、エクステリア、インテリアの空間で新味を出す押さえたデザインとしていることが好感が持てる所以である。

設備改修面については、空調機を木造構造とは切り離して設置するなど、強度上の配慮をしながら違和感のないよう調和を図っている。

なお、本物件の対象外とされているが、隣接して旧第二工場が建っている。トラスコンの4階建の家であるが、デザインを付加して、新しい用途に再生することを期待したい。